No1

第４号 1996. 2.21	ゾーン・システム研究会々報 Photographic Society of Zone System	発行者 中島 秀雄

編集部:東京都港区西麻布4-2-10東城ビル401 ゾーン・システム研究会事務局

第2期 総会 開催される

※ 第2期 総会が去る2月4日(土)早稲田奉仕園にてPM2:00～PM5:00 約20名の会員が参加し開催されました。

総会は、総会次第に従って円滑に進めることが出来ました。又、質疑応答では、まだ中島 先生のワークショップを完了されていない方で入会したい人は、どうするか？と言う話になり、この人達は準会員ということで、入会年に必ずワークショップに参加することを条件で一致し決定しました。

※【月例会の件】

日頃、会員の方が撮影会の外に集える場所がありませんでしたので、ゾーン・システム研究会の月例会を催すことで総会にて決定しました。

詳しい事は、郵便はがき にて会員の皆様にご連絡している通りですが、改めて記載いたします。

基本的には、毎月第2土曜日のPM1:00～PM5:00の間です。

最初の月例会は、1996年3月9日(土曜日) 横浜(ＪＲ桜木町駅 下車)日本一高いランドマークタワー１３階のフォーラムよこはま交流ラウンジで行います。日頃なかなか果たせない写真談義に楽しく花を咲かせて下さい。

※【総会スポット】

総会進行も半ば過ぎた頃、質疑応答の時間がありました、しかし４×５フィルムの現像の話になり、この話がとてもエスカレートして、質疑応答の時間内では、とても足りない程、色々な意見が出で、この時は会場が熱く感じられました。

結論として、ある人の意見を尊重して、後日 図解入りで詳解して頂くことになりました、楽しみにしてて下さい。

総会に参加出来なかった会員の皆様には、総会次第 及び 今後の活動予定と展覧会についての内容を送付しましたので、今後の活動目安にして頂ければと、感じております。あまり参加出来ていない会員の方には、この機会に是非 時間を作って参加されるよう、事務局として希望しております。（ご意見・ご希望・会報への原稿は、ゾーン・システム研究会事務局 井口まで、お寄せ下さい）

年会費納金のお願い

※ 1996年の第2期もスタートしました、年会費納金が、済んでいない会員の方は、速やかにお願い致します。

写真家の仕事場を訪ねる
中島 秀雄

☆ カメラサイズをスケールアップしていくとき、かならず問題になるのが引き伸ばし機です。

８×１０カメラなら、なおさらです。２年前、友達から８×１０カメラを借りて撮影していたとき、大型カメラの持ち主が回りに数人いることに気がつきました。ただ引き伸ばし機は、だれ一人として持っていませんでした。たしかに引き伸ばし機にまで手を出せない理由もそれなりに分かります。国産にはないこと、値段もカメラの３倍から５倍はすること、それを設置するスペースにもある程度の余裕が必要なこと、そして、それ以上に大型カメラで写真表現していく決意が必要だからです。しかし、それらの問題を自分なりの工夫と努力で解決している人もいるのです。

ここ河口湖の一角、別荘地に等しい場所に家を借り、もう５年住んでいる小部さんの自宅 兼 仕事場を訪ねたのは、研究会の活動として青木ヶ原樹海撮影と小部さんの作品を見せて頂くという企画でした。小部さんは川崎市民ミュージアムの写真講座を担当し、自ら作家として樹海に魅せられ、河口湖に住んでしまった人です。'94 銀座で個展を開き、自らの写真スタイルをアピールして来ました。

【大型カメラによる樹海写真】

前夜、我々は８×１０で撮られた小部さんの樹海写真を見せてもらいました。青木ヶ原の樹海といえば、松本清張の小説 "波の塔" が、あまりにも有名です。一度入ったら出られないとか、樹海を最後の場所と決めて入ってしまう人が、今もっていることを毎年ニュースで聞かされます。しかし小部さんの作品からは樹海の様々な俗性や陰湿なイメージは払拭され、有機的な樹木のイメージと、明るく清楚さえ感じ、その開かれた空間には豊かな空気もあり、誰もが入って出てこられる安心できる樹海に見えたのが印象的でした。

我々は常に俗っぽいことにこだわり、イメージを陰湿にしがちです、また、それを面白がったり楽しんだりする気質もあります。

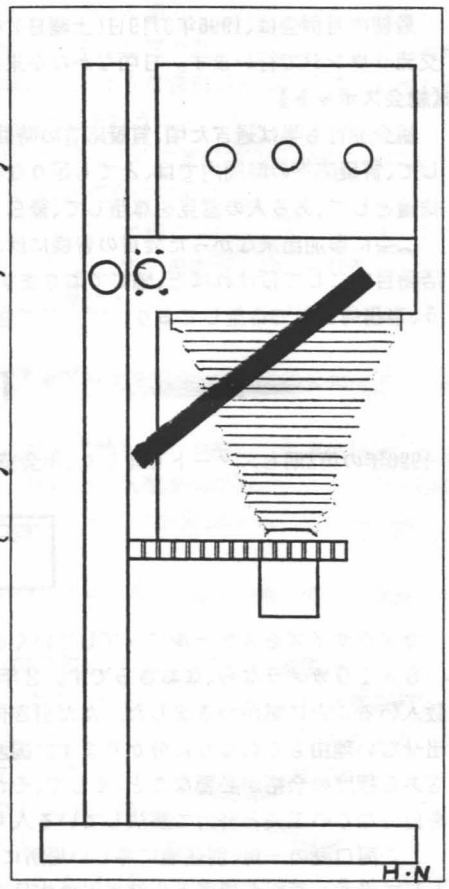
小部さんは、それらをバッサリと切って我々に見せてくれたのです。そんな安心できるイメージに見えるのも、大型カメラによる豊かなトーンとシャープなプリントであればこそで、そのプロセスに小部さんの努力と工夫があり、我々は多くの点で学ぶべきものがありました。

※【特製フィルムホルダー】

その一つは、バキューム式のフィルムホルダーです。8×10フィルムは長時間露出に若干問題があり、露出中に回りの空気の影響でフィルムが動いたり歪んだりします。それを防ぐために、小部さんは市販のバキューム式ホルダーを使っていました。片面にフィルムを入れ、その反対側から空気を吸い出す仕掛けで、一枚のホルダーにフィルムは一枚しか入らないというものです。これを使って1時間の露出をクリヤーしたということでした。納得です。また撮影途中のフィルム交換には、奥様が作った吊り下げ式のダークバックを使うということで見せてもらいました。これなどは直ぐにでも我々は作るべきだと思います。実は、この時に暗室見学が決まりました。

【手作りの8×10引き伸ばし機】

六畳程の独立した部屋に、全紙プリントが楽に処理出来る流しが設置され、反対側に引き伸ばし機がカバーに掛けられていました。誰もが大きな引き伸ばし機を想像していました。しかし少し違っていました。支柱に8×10の木製カメラが取り付けられ、ヘッドにB4程の木箱が取り付けられているだけで、どう見ても既製品には見えませんでした。市販の支柱と台、そこに木製のカメラを多少補強して取り付け、その上に木箱に入れた光源を設置しただけのものでした。"これなら自分にも出来そうだ"そんなため息とも驚きともとれる声が回りから聞こえてきました。木製カメラを使って横に引き伸ばす方式は、以前見たことがあり、立て方式は初めてでした。立て方式は水平垂直が取りやすく作業も楽ですが、支柱にかなりの強度を必要とし、なかなか手が出せなかったのです。小部方式は既製の支柱と補強した台、そして、木製カメラを使ったところに大きな特徴があり、これなら少し器用な人なら出来ると思いました。ただもう一つ大きな問題が残っています、光源をどうするかです。僕なら市販の8×10コールドライトを使いますが、小部さんは違いました。10W程の市販の蛍光管を20本程まとめ、高圧安定器を使って瞬時に点灯する装置まで作っているのです。この方式の特徴は光源が市販のコールドライトより明るいことで、比較的感度の低いマルチグレードペーパーに対応しやすいことです。但しマルチグレードペーパーはタングステン光源、つまり色温度2800′Kに対応したペーパーであるため光源の色温度を、どこかで変換しなくてはなりません。コダックラッテンNo.85～85Bが必要になってきます。そんなことから明るい光源として有利です。また露光時間も比較的短くてすみます、ただ光源をムラなく安定した光にするには、それなりの工夫が必要でしょう。この辺は小部さんに詳しく伺いたいところです。しかしこの手作り引き伸ばし機は圧巻でした、昨夜拝見したプリントが頭に浮かび、小部さんの並々ならぬ決意と、その器用さにも驚きでした。8×10引き伸ばし機といえばイタリヤのダースト社製のもので、顕微鏡の怪物のような、どでかい物が有名で井口事務局長(事務局)にあります、一度、見せてもらうといいと思います。



タングステン光源だと光源とコンデンサー・レンズにスペースを取られてしまい、コンパクトにすることが出来ません、ここを冷光源にすることで1／3の大きさになるのです。

今回は樹海撮影と、その樹海に魅せられ、移り住んでしまった小部さんを訪ねました。

自己表現に合う撮影エリアと居住空間、そして自分なりの道具を立ち上げていくことは作家にして見れば当たり前のこととはいえ、多くの人達が、やりたいと思っていても、なかなか出来ないことです。

小部さんの仕事場を見せてもらい、僕は、うらやましくもあり、また写真家として嬉しくもありました。

小部さんが樹海の奥深く入り込み、抜け出せなくなればなるほど作品は輝いてくるのではないかと、帰りの車の中で思いました。

中島 先生宅で暗室ワーク開催

吉野 光治郎

※　それは、1995年11月9日中島 秀雄 写真展(River)の作品解説の後、懇談会の席でのことでした。会員のグループ展に向けて撮影会の回数を多くするだけでなく、プリント技術の向上をはかるべきとの意見があり、中島先生のご好意で、1回につき5～6名(暗室が一人用に出来ているから)先生のお宅へ伺ってプリントの実技指導を受ける事になり、その第一回を昨年の12月3日(日)に行いました。

当日は快晴に恵まれ午後１時、五月台の駅に集まり先生の出迎えを頂き(約２名の遅刻あり)先生の自宅に向かいながら、開発が進んだとはいえ、まだまだ田園風景が色濃く残る、あたりの景観に魅せられながら５分程歩くと、そこはもう先生の家です。先生のお宅は道路の左手に一目で、それと解るアメリカ風のWood Sidingに白色のモダンな作りで右手には先生の生家が古風な、たたずまいを見せ、レトロなカブトムシが、さりげなく鎮座、家の裏手には時代を思わせる竹やぶに鳥たちが飛び交い、白い館の車庫にはSAABが収まっていて、住まう住人の個性を感じ取ることが出来ます。

レンガ敷きのステップを上がり白い扉を開けて入ると、左手はリビングルームで薪暖炉があり、食卓とソファーが置かれ、外にはウッドデッキにワン君が仲間外れにされて、うらめしそうな泣き声で迎えてくれました。

ふと壁を見ると有名写真家のプリントが無造作に掛けられ、一目瞭然で先生の住まいでのポジションなど察し羨ましく拝見しました。

ひとわたりプリント談義をするうちに約２名も到着、玄関の右手のドアーを開けると先生の仕事場、以前はここで近所の子供達の写真を撮影していたことがあると聞かされ、今はそれを想像するのは難しく、作品作りの場と化しているようです。

壁の一部には展示ボードが設えてあり、そこに作品を置き思考を纏めておられるようです。
この日はハッセルで写したヌードが数点あり、私達男６名を歓迎してくれました。

更にその奥は、暗室が設置されており、長手方向の真ん中に通路、左に水回り、右に引き伸ばし機が２台置かれ、手前はベセラーの４×５で、奥は８×１０となっています、左の手前には水洗の為の設備が、とても合理的に設置され、フィルム及び印画紙とも、完全な水洗をと云う先生の信念が８０Ｃｍ角程の狭い流し台の中に擬縮されており驚かされました。

まず冷水は水道水で、湯は温水器から導き、混合水洗器で一定の水温となり水量計(L/hr.)で水量を一定とし、浄水器のフィルターを通してアクリルの水槽に注がれています、驚きです、これ程の配慮をした水洗の必要性をファインプリントの作業工程の中心と考える感性と、自分の死後にも生き続けるプリントを望む作者の責任感に失礼ながら改めて先生の情熱に感銘しました。

水槽は大四程のバット３枚分と、けして十分な大きさではないのですが巧く使っています、定着バットより少し大きなアクリル板に凸部を２箇所設け不使用時は蓋として用い、使用時には凹みに凸部を差し込みバットの奥に斜めに立て掛けて定着したプリントをアクリル板面に張り付けて、白昼光を避けて調子を点検する作業を、此処でこのような合理的な方法で行っています、セフティーライトは水槽の上で天上から吊り下げる形式で、3灯設置されていて安全性はテスト済みとのことでした。

引き伸ばしについてのネガキャリアは、両面ガラスを使用し、作業中はセフティーライト１灯のみで安全確保、その後の手順は我々が習った通りで、覆い焼きもルール通り、ただ決定的に異なることは、プリント作業中にチェックする能力の差と、見る目の確かさと、対応判断能力の違いは経験を伴うノウハウであり一朝一夕では到達出来るものではありません、しかし、教わる事と取得したという熱意によって短縮することは可能です、教すわると伝うことはまず、自分のプライドを捨て裸の自分を晒け出すことから始まります、ゼロからのスタート、これが今回のワークショップで学んだ最大の収穫でした。

先生、これからも下手なネガとプリントを臆面もなく持ち込みますが、宜しく御指導下さい！！

八ヶ岳周辺撮影会にて

井口 喜正

※　2月17日(土)の当日、私達は韮崎インターAM9:00の集合となりました。 雪は、中央高速の山梨県に入った頃から降り始め、韮崎インターに着いた頃には、既に5Cm程積もっていました。韮崎インターでは、最後の一人を待つ事になり、ここで待ていれば必ず古谷さんは車に乗って、ここから出て来るはずだ、皆で話していたのですが一向に来る気配がありません、9時30を過ぎた頃、私は、やな予感がしました。

その時、中島先生が、井口さん古谷さんに集合場所と時間の変更の連絡をした？ と聞かれたのです。あ！忘れた、私は青くなりました。古谷さんだけが韮崎駅AM10:00集合になっていたのです、皆で韮崎駅に向かい、駅で中島先生が古谷さんを見つけました。

なんと、古谷さんは、車ではなく電車で前の日(16日)に出発して朝早く到着し、3時間程、待っていたようです。全員揃ったので、私達は、金平台に向かって走行している間にも雪は、どんどん降って来て回りは白一色になっていました。途中 売店に寄り、インスタントコーヒーと味噌汁の元を買いました。これには分けがあり、藤原さんが、卓上コンロを持って来ていたのです、これは最高!その為に韮崎インターの手前のドライブインで、美味しい水を分けてもらいました。

ところで売店に着いたのは良かったのですが、朝早起きの為、腹が減っていたらしく、皆は肉まんを注文して美味しそうに食べていました。雪は更に降り、道は起伏が多くなり、滑っている車があったので、チェーンを付けることになったのですが、中島先生だけは何故か悩んでいました。四輪駆動の車にチェーンを付けるべきか、そのまま行くべきか、しかし安全を考え全車にチェーンをつけることになりました。ほら乗りごごち悪いでしょ!車は前進し、渓谷に差しかかった時、先生が車を止め回りの景色を10分程 見始め、ここで撮ろう、誰かポラロイド持って来ている人、(古谷さん)私持っています。じゃ～古谷さん撮って(古谷さん)私が撮るんですか、こんな会話をしながら撮影を開始することになったのですが、雪がどんどん降って、そんな雪の為に皆はたじろっていた時、僕がまず撮ろお、と、新品の8×10カメラをかついで、こんな気象状況でも雨以外は撮るよ、そのような意思表示を見せてくれました。

そして、今まで大事にしていたカメラを雪にさらすことになり、思い思いのスタイルで撮影を行うことになりました。

車は峠に向かって走行する途中に、川、石、雪のマッチングが素晴らしい景色に出会い、私達はここで更に撮影をすることになり、同時に食事もここでしよう、と、いうことになりました。そこには小さなベンチが丁度あり、好都合の場所でもあったのです、しかし藤原さんが持って来たコンロで、お湯を沸かすのに少し時間が必要でした。最初はボンベのガスが残り少なくなっていたので時間が掛かり、その間 私達は撮影に没頭していたのです。その間、中島 先生は、ビデオカメラを回し、皆の撮影をしている状況を記録していました。一切り撮影をしている内に皆の体は冷えて、暖かい物を欲求していたその時、藤原さんが、これ飲むか、と 出して来たのがウイスキーでした。

私と諸見里さんは、さっそく、そのウイスキーに飛びつき、コップの中に雪を入れてオンザロックです、雪の景色を見ながらのオンザロックは最高でした。体が少し暖まった頃、ようやく お湯も沸いて、暖かい味噌汁を飲むことが出来ました。

自然の中の昼食は、おにぎり2ヶと、味噌汁という質素な昼食ではありましたが、雪の降る素晴らしい景観での食事は何物にも堪えがたい最高の味でした。その日、最後の撮影に入ったのは、3時を過ぎていて、雪は一向に止む気配が見られず、これ以上の撮影は無理ということになり、足早に瑞牆山の峠を越えて一路、宿泊先の(清里)清泉寮に向かうことになりました。既に雪は大分積もっていて、もう少しゆっくりしていたら峠を越せなかったかもしれません。

清泉寮に着いたのは、PM6:00頃で、夕食の後、アメリカのカリフォルニア州ヨセミテのビデオと今日 先生が撮っていた記録ビデオを見て、無事一日目が終了しました。

二日目の朝は、天候がとても心配でしたので6:00起床し外を見ると、相変わらず雪は降り続いて、30Cm以上の積雪があり、車は雪で覆われていました。今日の撮影はどうしよう！中島先生は、身じかな場所を撮影しよう、と！いうことになり清泉寮の軒下にぶる下がっている氷柱を撮ることになり、清泉寮の中を、あちらこちら構図を決めに見て回り、広いミーティングルームのある一角で撮ることになりました。その後、参加者全員で記念撮影を行い、次ぎの予定は清里フォトアートミュージアムで写真の鑑賞です。

写真の鑑賞が終わった時です、空が明るくなり、回りの山々が美しい姿を見せたのです、写真が撮れる！早く行動しよう、その時は、昼食の時間で食事を取る事になりました。食事を取っている最中に又 雪が降って来ました。これからの撮影は無理だな！こんな会話をしながら外にでて、2班に別れました。まだ撮り足りない私達の組と帰る組です、私達は先生を含め5名となり、いざ解散という時に、又 先生が悩んでいました。チェーンを取ろうか、取るまいか、そうだ！石川さんはチェーンを付けずに静岡から来ているので、石川さんに聞いてみよう、私は先生の代わりに聞いたのですが、素晴らしい一言が返って来ました。四輪駆動の車にチェーンを付けたら四輪駆動の車に乗っている意味が無いでしょう！中島先生は唖然とした顔をしていましたが、気を取り直してチェーンを取ることになりました。(これは余談ですが、石川さんは、自然と雪が大好きで、その土地に行って、雪は何処にありますか？と聞いて雪の道を、わざわざ車で走るのが大変好だと話していました。)私達は皆と別れ近くの谷口牧場の周辺の撮影を行うことになったのですが、前日より風も出て、雪も降って、とても悪条件でしたが、撮影をしたのです。

今回の撮影は終始、雪に悩まされましたが、結果的に素晴らしい撮影会だったと思います、自然は私達の都合に答えてくれません、しかし自然は私達に素晴らしい景観を見せてくれます、その自然との対話と行動が写真表現になるのかと感じます、ひるんでいる人には弱い写真、向かって行く人には力強い写真が出来ると思います、でも自然は無限の力を持っています、私達の自然を撮る熱意に自然は答え来れ素晴らしい写真が撮れるのだな～と感じました。今回の八ヶ岳周辺撮影会は事故もなく無事に終了し思いで深い撮影となりました。特にシュトロエンは…… 参加された15名の皆さん大変お疲れ様でした。